

中小企業の業況は、大幅な低下傾向にある。

山口商工会議所では、管内中小企業99社を対象に景況調査を実施し、このほど令和4年1月～3月期実績と令和4年4月～6月期見通しについての調査結果（回答数90社、回答率90.9%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲28%から▲48%とマイナス幅が大幅に拡大した。業種別にみると、製造業は▲21%から▲40%と大幅に低下しているが、来期は▲27%と改善する見通しである。建設業は▲31%から▲23%に改善しているが、来期は▲31%と低下する見通しである。小売業は▲32%から▲59%と大幅に低下しているが、来期は▲45%とマイナス幅が縮小する見通しである。サービス業は▲22%から▲52%と大幅に低下しており、来期については▲32%とマイナス幅が縮小する見通しである。

今回調査では、前回調査と比較して建設業を除くすべての業種で低下傾向が見られた。

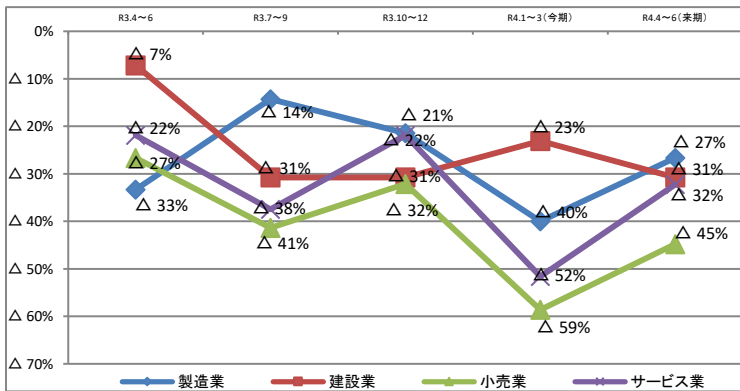
新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の9%と前期18%を9ポイント下回った。来期設備投資を実施予定の企業は11%であった。

経営上の問題点については、前回調査に引き続き全業種で「需要の停滞」が上位に挙げられた。また、サービス業以外の業種で「価格の上昇」が上位に入り、サービス業では前回調査に引き続き「利用者ニーズの変化への対応」が上位に挙げられた。

◆業況DI値（今期の状況）

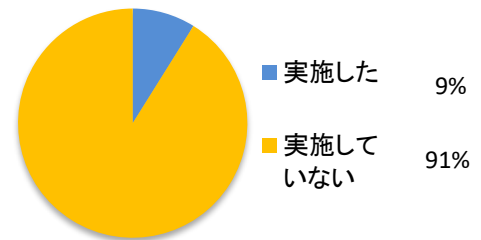
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 48%	→	△ 51%	→	△ 33%	→	42%	→	△ 58%	→	△ 12%	→
製造業	△ 40%	→	△ 53%	→	△ 40%	→	73%	→	△ 53%	→	△ 27%	→
建設業	△ 23%	→	△ 31%	→	△ 15%	→	77%	→	△ 54%	→	0%	→
小売業	△ 59%	→	△ 52%	→	△ 41%	→	24%	→	△ 62%	→	△ 14%	→
サービス業	△ 52%	→	△ 55%	→	△ 29%	→	26%	→	△ 55%	→	△ 6%	→

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

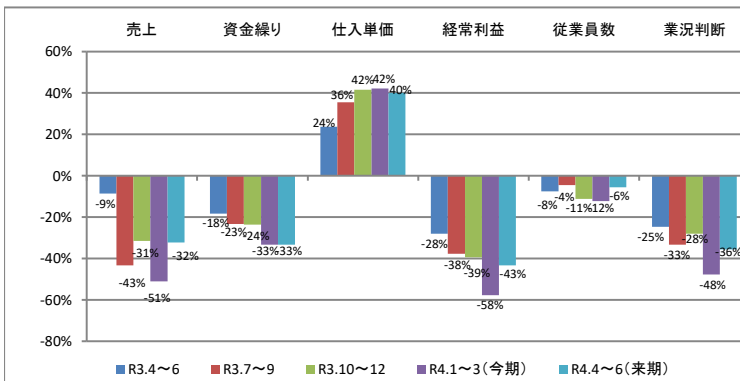


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

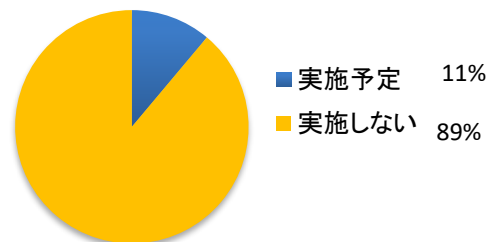
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	原材料価格の上昇 28.2%	材料価格の上昇 25.8%	需要の停滞 26.2%	需要の停滞 23.8%
2位	需要の停滞 23.1%	民間需要の停滞 16.1%	消費者ニーズの変化への対応 10.8%	利用者ニーズの変化への対応 16.7%
3位	製品ニーズの変化への対応 10.3%	熟練技術者の確保難 12.9%	仕入単価の上昇 9.2%	人件費以外の経費の増加 9.5%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。